

平成 27 年度 第三回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議 議事録【確定版】

- 日時 平成 28 年 2 月 12 日（金）15 時～16 時 30 分
- 場所 体験学習施設スマイル 多目的室 2（アトリエ）
- 出席者（敬称略、順不同）
（会長）渡邊忠貴、（副会長）森谷紀子、秋山寿子、若狭秀巳、七海耕一、橋本伸江
小野田和幸
- 欠席者 石井昭子、磯野昌子、森川いつみ、川嶋名津子
- 事務局 阿万野文化スポーツ課長 黒羽係長、鬼原主事
- 会議の公開・非公開 公開
- 傍聴人の有無 0 人
- 記録 鬼原 平成 28 年 2 月 15 日作成

- 議題（1）『（仮称）逗子アーカイブス』の推進について
（2）その他
・新メンバーの募集について

■配布資料

- ・会議次第
- ・会長からの提出資料 「平成 27 年度逗子文化振興基本計画策定・推進会議」パワーポイント
- ・「保存版 鎌倉・逗子・葉山今昔写真帖」奥付写し
- ・『（仮称）逗子アーカイブス』の目標とゴール 進めるにあたってのたたき台
（前回会議資料 2）

■会議に先立ち視察 13 時 30 分～14 時 30 分

- ・池子遺跡群資料館
- ・体験学習施設スマイル 旧青少年会館への市民からの寄贈物（保管状況）
（視察参加者）渡邊会長、森谷副会長
秋山メンバー、若狭メンバー、森川メンバー、橋本メンバー

■議事

1 開 会

- ・・・配布資料の確認・・・
- ・・・出欠の確認・・・
- ・・・新メンバーの紹介・・・

2 議 題

(1) 「(仮称) 逗子アーカイブス」の推進について

<会長>

前回の会議の後、「(仮称) 逗子アーカイブス」は何をやるものなのかという疑問が残っていたので、先週2月4日に、鎌倉市立中央図書館近代史資料室に視察に行ってきた。今日はそのことについて報告する。また先ほど池子遺跡郡資料館などの視察に行き、旧青少年会館への市民からの寄贈物についても確認をした。こうした情報をもとに、今後どのように「(仮称) 逗子アーカイブス」を検討していくか皆さんと話し合いたい。

来年度は今年度に引き続き「(仮称) 逗子アーカイブス」の方向性を検討することになるが、来年度の進め方、特にアドバイザーをどうするかなどの課題について皆さんと共有していきたい。再来年度には「(仮称) 逗子アーカイブス」にむけた動きを本格化させるということだが、あまり行動が遅いと、残すべき資料が無くなってしまいうということも考えられる。本会議は「(仮称) 逗子アーカイブス」を作っていく実行部隊ではないが、「(仮称) 逗子アーカイブス」を作るための有効な計画をねり、実行部隊がきちんと動けるようにしていく。

・・・会長提出資料（パワーポイント）の説明・・・

前回会議では、「(仮称) 逗子アーカイブス」の目的とゴールを設定する必要性を確認した。

また市まちづくりネットワーク会議で秋山メンバーに発表していただいたが、文化振興基本計画と他の個別計画の連携について、市民や個人が社会学習という部分で自立した気持ちを持つこと、また行政が周辺整備や市民が活動しやすい環境づくりの役割を担うことで、市民のライフサイクルプランを考えていく必要があると考えている。

今までいろいろな方がデジタルアーカイブスの実現に向けて考えてきたが、結果として進んでいないのが現状だ。一方で、市内には資料がたくさんあると聞いている。だから「考えているだけでは進まない」「先ず、出来ることからやろう」という考えのもとに動くべきだ。

2月4日の視察について報告する。

鎌倉市立中央図書館近代史資料室では、館長補佐の中田氏、専門家として勤務する平田氏にお会いした。平田氏がいわば知恵袋となってこの資料室を取り仕切っている。

資料室にはたくさんの資料が山積みされていた。本日資料として「鎌倉・逗子・葉山今昔写真帖」という本の奥付の写しを配付したが、著作者として並んでいるお名前、このような方々が逗子の歴史に関わってくださっていることが分かる。この方々をたどることで、「(仮称) 逗子アーカイブス」について考えていく上でなんらかの道筋が見えてくる、と考えている。

鎌倉市では、市民から寄贈された紙の資料については、中性紙のフォルダに保管しているとのことだった。中性でないと紙が酸化してしまいぼろぼろになってしまう。先ほどの池子遺跡群資料館では土器などの出土物については、特に空調・湿度などの厳密な管理は必要ないとのことだったが、紙の資料はこうした保存が重要とのこと。

写真は原版を撮影し、ネガとともにアルバム保管しているとのこと。

また、チラシやポスター、駅弁の包み紙やひもなども重要なアーカイブスになり得るとのこと、こうした資料は、古物商から買収することもあるそうだ。

分類は、時代別、項目別などの分類方法で行い、文書管理法に従っているとのこと。

鎌倉市の収集の対象は、紙媒体や写真、古文書などで、市民が保有しているものが中心で。時代は幕末以降近代史が中心だった。

人員は、専門員1名（日本史専攻）にアルバイト数名、ただし、本来ならば「アーキビスト」資格を持った方が当たるのが望ましいとのことだ。

資料買収予算は人件費とは別に15万円ほど。

デジタル化については、マシンリーダー対応を目指しているとのこと。

市の公文書で、保存期限終了の後の処分の仕方について、現在平田氏が検討しているとのこと。

公開について、原則は公開であるが、専門員が判断して公開・非公開を決めているとのこと。マスコミなどからの引き合いが多いとのことだ。

収集方法について、「お宝展」「古書展示会」などを介して収集し、「タウンニュース」などに収集について告知すると効果があるとのことだ。

<森谷メンバー>

「タウンニュース」は住民に身近な媒体になっている。配布数も多い。

<会長>

保管場所のことなどを考えているとなにも始まらないので、まずは収集をはじめてしまうことが重要とのこと。買取り予算の15万円でも足りず、図書館に設置している募金箱が意外と効果があるそうで、その他には寄付などもあるそうだ。

<事務局（文化スポーツ係長）>

寄付について、市が直接受ける寄付は用途を限れないので、もし「(仮称) 逗子アーカイブス」のための寄付を募るなら、組織を実行委員会形式などにして、そこに寄付をしていただく、という方法が考えられる。

<会長>

原則は無料で寄贈をしてもらい、公開もするとのことだ。

また、逗子でこうした資料に詳しい方の情報はあるかという質問に対しては、橋本社会教育課長、吉田元図書館長、草柳元図書館長、小川現図書館長、逗子古文書の会、故黒田氏の遺志を継いで活動されている方などのお名前を伺った。間違いなく逗子の中にも古い資料などに詳しい方がいることは実感した。

<若狭メンバー>

手帳の会は、小学校の先生たちがメンバーでいらして、年齢的にはまだご健在だと思う。

<会長>

「対象は紙資料か、物資料か」「収集の仕方」「情報公開」「専門家の指導と雇用」「体系化、目録づくり」などの問題があり、「スケジュールは2017年3月までに骨子づくり」ということになるが、これからの進め方として「まず収集する。もっと市民の方の声も拾うことが大切」「対象を決める」「人材を捜す」「アドバイザーを決めて予算化する」これらを通して、いずれ事業化する必要があると思う。

逗子の市民として、池子遺跡群資料館で見たような立派な資料がまだまだあるのだから、きっちりアーカイブスを作っていく必要があると感じたところである。

市で保管する古文書などは、どのような保管の仕方をしているのか。

<事務局（文化スポーツ係長）>

社会教育課所管のものは、池子で見た資料のほか、郷土資料館に保管されている。

図書館は閉架書庫に過去の逗子市史などが保管されている。

<会長>

旧郷土資料館は視察に行く必要がある。また、資料の募集を実際に行うということについてはどうか。

<小野田メンバー>

資料の「対象」を限定することで、ある程度絞り込まれた資料を集めることが出来ると思う。

<森谷メンバー>

まず「手に負えるもの」の収集から始めてみたらどうか。写真とか、なにか一つテーマを決めて収集してみるというのもいい。写真は歴史を振り返るうえでいい資料になると思う。

<若狭メンバー>

図面はどうだろうか。逗子は別荘が多かったから、別荘文化を示すような図面などもいいと思う。有名人の別荘など形は残っていないが、間取り図のようなものが残っているかもしれない。

<会長>

旧脇村邸には何が保管されているのか。

<若狭メンバー>

ほととぎす隊が管理しているので、ほととぎす隊に聞けば分かる。

<森谷メンバー>

ほととぎす隊は当初から旧脇村邸での資料保管について意見していたので、きちんと聞いておくべきだ。

<若狭メンバー>

旧脇村邸をアーカイブスの拠点にできないかほととぎす隊の方に聞いたら、防災上の問題で難しいとのことだった。ただ市の文化財として認定されればそれがクリア出来る、と言っていた。

<事務局（文化スポーツ係長）>

旧脇村邸の活用は、建築基準法や都市計画法の関係から、現状では難しいと聞いている。不特定多数の人が出入りする建築物としては認められないというのが県土木事務所の見解だ。

<会長>

資料の保存場所については、やはり市が確保するべきだ。

<森谷メンバー>

資金確保の方法として「レディフォー」という仕組みがある。これからの新しいファンドの形として今注目されているものだ。クラウドファンディングのひとつで、何かやりたいことを提案して、それに賛同する一般の方がオンライン決済で寄付するというものだ。こういう仕組みを活用して資金を調達し、拠点の整備に活用できないか。特に若い人からの反応がよく、全国からお金を集めることが出来るかもしれない。またこういう仕組みを活用すること自体が、アーカイブスのアピールになる。寄付により支援した方には「リターン」という、何らかのお礼をするシステムがある。民間による‘ふるさと納税’的なものだ。

また「はまかぜ新聞」が40周年を迎えるとのことで、今後逗子のことについて力をいれて取り上げていくという話もあるらしい。こうした「はまかぜ新聞」や「タウンニュース」など地元密着型のメディアに掲載などして、資料や寄付を集めていくという考え方もある。

アーカイブスの拠点について、池田通り沿いの空き予定のビルなど、今から手を挙げてもいいのではないか。

<若狭メンバー>

先ほど視察した池子遺跡群など、逗子の文化財などをアピールして、クラウドファンディングするという手もある。

<会長>

この取り組みの中心になってくれそうな方の情報はるか。橋本社会教育課長や小川現図書館長に適当な方はいないか聞くことはできるか。

<事務局（文化スポーツ課長）>

両名には問合せをする。また、アドバイザー謝礼について、28年度の予算計上はしている。

<秋山メンバー>

中野幸一先生という逗子にとっても詳しい方がいらっしゃる。早稲田大学名誉教授で中古文学の専

門家である。また黒田先生のもとで長く古文書を扱っていた方がいるので、その方にも聞いてみる。

<若狭メンバー>

逗子の寺社仏閣が所有する資料についても、どこかのタイミングで当たるべきだ。

<七海メンバー>

ずし楽習塾で仏像についてのクラスを開催しているが、岡本さんという方に先生をお願いしている。金沢文庫で案内役をやっていた方だ。

<会長>

今日の池子遺跡群資料館などの視察の感想をお願いします。

<橋本メンバー>

池子遺跡群資料館は、池子小学校の児童は必ず視察するが、他の学校はあまり活用していないと聞いた。今日視察して、大人が見てもあれだけ感激するのに、どうして逗子の学校で見学をしないのか、郷土で出土した資料を見に行かないというのは残念だ。もう少し授業に活用してほしい。

<秋山メンバー>

あれだけの資料がありながら、まるで宝の持ち腐れのように感じた。

<若狭メンバー>

先日逗子高校の特別授業で、地域の中で行われているいろいろなことを、グループごとにワークショップ形式で勉強するというところを行った。その中で感じたのだが、まちが持っているものを、子どもたちにどのように与えて、あるいは見せて、勉強させるかということが大切なのであって、例えば今日の池子遺跡群資料館の資料についても、単純な歴史の勉強の一環で連れて行くだけでなく、今の生活と関連づけるなど、どう見せるかによって変わってくる。活かし方は私たちが考えなければならない。

<森谷メンバー>

子どもたちは、きちんとした見せ方をすれば、興味を持って見てくれると思う。池子遺跡群資料館についても、大人がまず感動して、それを子どもに見せたい、という場にしていくことが大切だと思った。また、情報の共有というのが大切だと思った。

旧脇村邸と郷土資料館は「(仮称)逗子アーカイブス」検討の根本にもなるので、ぜひ視察したい。

<小野田メンバー>

皆さんのもっている情報を横につなげる機会が、この会議になっている。いろんな方を呼んで話を聞くというのも手段である。

(2) その他

<会長>

続いて議題の2「その他」について、事務局より説明をお願いしたい。

<事務局(課長)>

市民委員の募集を4月に行う予定である。お声かけをお願いします。

<会長>

以上で本日の議事は全て終了する。

3 閉会

<事務局(文化スポーツ課長)>

次回会議については、4月12日(火)午後、旧脇村邸と郷土資料館の視察後会議ということでお願いします。以上で平成27年度第三回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議を終了する。

以上